

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470201217
法人名	株式会社 三重互助サービス
事業所名	グループホーム さるびあ新正
所在地 (電話番号)	四日市市新正5丁目2-6 (電話) 059-352-0801
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 1 月 26 日(月)

【情報提供票より】 (H21年1月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 21 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 4.7人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 円 (1ヶ月 45,000 円)			

(4) 利用者の概要(1 月 2 日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2		3 名	
要介護3		4 名	要介護4		1 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	86 歳	最低	82 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小さな工場が多い郊外に位置した地域に有り、ケア・プラザグループのデイケアサービスと同敷地内に別棟の二階部分を改造した8名入居可能なユニットとなっている。食堂兼居間はやや狭いが、同じフロアに居室、風呂、洗面、トイレ等が配置され、全てに目が届き易い様に工夫されている。職員の年齢層が幅広く、全員が女子で和やかな雰囲気支援されている様子がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「鍵をかけない実践」では、入り口が一階部分と共同の為、常にオープンとなっているが、階段を昇った入り口には踊り場も無く、階段が急な構造となっており、鍵がダイヤル式からワンタッチ式に変更され工夫をされているが、常に施錠はされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>評価の意義については、管理者から職員に伝えられており、職員も理解しながら自己評価がされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は事業所としても重要な内容として位置づけており、自治会、傾聴同好会、行政、介護相談員、利用者及び家族が常に参加し、事業所の実態や課題などについて積極的に意見交換されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「グループホームさるびあ新正だより」が毎月発行されており、イベントや日々の生活状況を写真入りで送付している。一人ひとりの健康状態を含め個人の情報は電話で伝えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域に一般住宅は少ないが夏祭りなどのイベントにはチラシで広報に務め、グループホームの存在を広めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	H18年の法改正と共に、地域密着を意識した理念について職員と検討し、新しい理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一般住宅は近隣に少ないが、イベントを通じて事業所の存在をPRし、認知症の相談会を開催したりして、地域とのつながりに務めている。利用者とは穏やかな雰囲気の中で一人ひとりの生活歴を意識しながら支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入しているが殆ど行事が無い為、併設のデイサービスと共にイベントを開催して交流に務めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年と評価項目に変更が無かったため、今回は管理者が中心になって実施したが、評価の意義については共有化が図られており、支援の見直しに活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議への出席は、自治会、介護相談員、傾聴同好会、市高齢福祉課、利用者及び家族と多く、事業所の状況や課題など幅広く意見交換されている。話し合いの過程で近所が暗い事が話題となり、早速自治会で街灯を設置してもらったりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では市の職員が来所する事は殆ど無いが電話で要件を話している。利用者の介護申請時に市へは訪ねて意見交換を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「グループホームさるびあ新正だより」により、写真入りで日々の様子を毎月送っている。訪問の少ない家族には電話で健康状態を含め報告している。職員の移動は殆ど無い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に外部へ表せる内容が記載されており、家族の来所時には、利用者毎の主な担当者が意見を聞いており、月一度のケア会議に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ケア・プラザグループ内の移動は無く、基本的な支援者を利用者毎に決め、きめ細かな支援に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、ヘルパー2級2名と介護福祉士2名居るが、更にスキルアップの為に積極的に研修の資料提供などをして、段階に応じた支援をしている。三重県グループホーム協会の研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他地区のグループホームと相互訪問をし意見交換を行い交流を図っている。ケア・プラザグループ内での勉強会は随時開催してサービスの向上に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的に利用要望が有る時には、利用者や家族の見学を受け入れ、ケースにより自宅を訪問して相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として、物の見方、考え方を学びながら共に楽しむ事を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの状況を共有化する為に、日誌に記録すると共に休みの職員にはメールで知らせ、月一回のケア会議では希望や思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居約一ヶ月後にケアプランを、本人の望ましい生活像、解決すべき課題、具体的計画について職員で検討しながら作成し、家族のサインを受けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの具体的計画内容に対し、援助内容を週毎に評価し、モニタリングが6ヶ月単位で実施されている。尚、特に介護レベルに変化が生じた時にはその都度見直している。	○	変化に応じて随時見直しをされているが、見直し期間が基本的に6ヶ月であり、利用者の高齢化が進んでいることから、3ヶ月程度にして実践的な対応が出来る様にすることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイケアと共に、「認知症に関する研修会」を開催している。要望に応じ、かかりつけ医院での受診に送迎して支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月二回契約医院からの往診があり、緻密な健康管理が行われている。定期健診は全員契約医院で実施している。尚、かかりつけ医院受診の希望者もあり、利用者の希望に沿った支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の指針として、可能な限り終身対応を行い、重度化した場合は、家族の意思を確認し協議をする事の取り決めが契約時点で実施されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴時やトイレ誘導などの時には、そっと声掛けをするなどで配慮してプライバシーの保護についても、職員同士で話し合い対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の時間は決めているが朝起きれなかったり、食事の時間が長くなる人などについては、特に急がせずその人のペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食を除き、ケア・プラザグループの給食センターから調理済みの物を取り寄せて、ご飯はやわらかめに炊き配膳している。介護レベルの変化から最近では準備や後片付けの出来る人は少ないが、一部の利用者が一緒にしている。食事をサポートしながら、出来る範囲で一緒に話しながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬は2～3日に一度位の割合で入浴しており、朝は毎日全員下着交換をしながら、拭いて清潔に配慮している。時間は午前中に余裕を持って楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に聞き取った「生活歴」やその後の話から、一人ひとりの「自分史」をイラストや写真でファイルにしてあり、誰でも見ればよく解るように作成され、更に「物語」として話を作り楽しめる様に工夫され、職員と共に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車で近くのスーパーや公園へ出かける事も有るが、冬は敷地内の駐車場で陽にあたって気分転換を図る様に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の入り口は、一階の事務所と共同の為オープンとなっているが、階段を昇ったグループホームの入り口は、踊り場が無く扉に施錠されている。施錠はダイヤル式から簡単なワンタッチの鍵に変更され工夫されている。	○	借家で改造が困難な事も考えられるが、鍵を掛ける事の弊害について、運営者とも話し合いながら階段の変更等、検討をされることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に一度、建物から駐車場への避難訓練は実施されているが、火災や大地震を想定した避難所への対応は検討されていない。	○	地区の定められた避難所の確認と、避難所への道路状況を確認して、一度訓練を実施されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは給食センターで管理され、水分摂取量はバイタルチェック表で管理され、一日1600ccを基準に確保されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間はやや狭いが、それを囲む様に台所、浴室、トイレ、居室が配置され工夫されている。カレンダーは利用者の共同制作の「日めくり」や季節に応じた「ちぎり絵」などが飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室カーペットが敷かれた洋間となっており、ベッドと共に一人ひとりの好みに応じた入れ物などが置かれている。写真や仏壇など本人の希望に沿った物で工夫がされている。		